

予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く19人の議員で構成、委員長は多田誠一議員、副委員長は荒川栄悦議員）は、条例4件、予算6件、その他3件について付託を受けて2日間の審議を行いました。

今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全13議案が原案のとおり可決されました。

たかむろ水光園 芸能館改築について

問 芸能館改築の内容はどのようなものか。

答 昭和59年に供用開始し30年になるうとしてい。今回の大震災により大変な被害を受けたが、今回の改築の主なものは、使い勝手の追求、バリアフリー化、トイレの改修、そして折角取得している仕出し免許の活用なども踏まえた厨房の改修などで、蔵やステージはそのまま残し、それ以外の部分は改修・解体等行いたい。

問 今回の改築等により特に期待したいことは何か。

答 これまでは、市民や観光客の皆様楽しんでいただく、或いは都市と農村の交流施設であったが、今回の改築により、これまで交流のなかった被災地の方々やボランティアの方々と遠野市民

が交流できる拠点施設に生まれ変わればと思っている。

問 水光園へのアクセス道路も今回の震災により大きな被害を受け、う回路をつくり対応しているようだが、水光園は、遠野市の観光施設として大きなウエイトを占めており、応急措置（ブルーシートを張ったり）だけではこの冬乗り切れないのではないか。

答 アクセス道についてはこの7月に災害査定を受け、現在工事発注の手続き中となっている。アクセス道の下には踊鹿に行く水道本管と市内に行く水道本管の2本が埋設されており、今回、これら本管を耐震管に換えようと水道事務所でも検討しているところである。アクセス道改修と本管2本の工事が絡み合っており特殊な工事事情ではあるが、年度内完成を目指して進める予定となっている。当面、観光客をは

じめ水光園利用者にはご迷惑をおかけするがご理解をお願いしたい。



被災したたかむろ水光園のアクセス道

後方支援活動 について

問 社協・松崎地区センターと一緒に建物の事務所を構える遠野まごころネットの後方支援活動は、あと10年ぐらい続くものと思われる。社協本来の業務に停滞を来さぬよう、別の場所に事務所を設けるべきではないか。

答 後方支援活動は、単に行政だけが行うべきも

のではないことは、再三申し上げてきている。支援のステージも変わり、いよいよ被災地の生活復興に向かっているが、ご指摘のまごころネットの活動拠点については大変重要なことであり、その方向性については今後の大きな課題という認識を踏まえ、関係機関・団体を含めて総合的に検討していく必要がある。

地域活動専門員の 配置について

問 当初の説明では3名の専門員をモデル的に配置し、各地区センターの新たな体制や役割、支援方策等について検証したうえで来年度以降順次増員を図るということであつたが、今回新たに2名増員した理由は何か。

答 「地域づくり・健康づくり・人づくり」をテーマに8月から3名の専門員を配置し活動中である。また、今回の2名の増員は当初の予定を前